



<http://www.okawachisho.com> 令和7年10月21日

全校補充学習「チャレンジタイム」がはじまります



後期からは、前回お伝えした全校補充学習「チャレンジタイム」が始まります。スタートにあたり、子どもたちには自分に合った新たな目標を持ち、こつこつと練習を重ねる中でわかる喜びを味わいながら、それぞれの力を伸ばしてしてほしいと願っています。

また、行事としては、10月23日・24日の6年生の修学旅行や各学年の遠足や社会見学、11月15日の文化祭、19日の劇団うりんこの芸術鑑賞、29日の地域合同防災体験学習など、盛りだくさんです。楽しみにしててくださいね。これから行事にかかわるPTA活動や、お弁当や持ち物の準備など、おうちの方にはお忙しい中たくさんお世話になります。よろしくお願いいたします。

長い子育てのうち、小学校時代はなにかと大変なこと、煩雑に感じられることがあるかもしれませんが、小学校だからこそ親子が一緒にかかわれる楽しみがあると思います。よろしくお願いいたします。

低学年・高学年の下校の時刻も毎日載せています。
ご活用ください。

行事予定の連絡方法がかわりました

10月の第1週目に、一枚の表の形式で11月の行事予定をお届けしました。これまで行事予定は学校だよりでお伝えしていましたが、情報の1本化を図り、わかりやすく伝えることを目的に、ひと月前の初旬に別紙とメール（添付）でお知らせします。これまでの学校だよりのタイミングより、内容も詳しくなり、早めにみなさまにお知らせできるのが今回の変更のメリットです。

いつもと違う下校時刻の変更などもこちらでご確認いただければと思います。

各学年独自の行事や持ち物等については、これまで通り学級通信で詳しくお伝えしていきますので、合わせてご確認ください。

(※行事予定は、変更になることがあります。)

日	曜	校 内 行 事（敬請見用）	下校後	EST	ALT	得意	SC	SD	SDD	その他
				朝会	部活	校内	合同	校外	運動会	発表
1	土									
2	日									
3	火									
4	水									
5	木	遠征指導(3限目)3年生 一室下校 職員会議	11-2限生 10:45 4-6年生 10:45		○					
6	金		10:45							
7	土	保護者 委員会	11-2限生 10:45 3-4年生 10:45							
8	日		11-2限生 10:45 3-4年生 10:45							
9	月									
10	火	翻打合 3-4年生社会見学	11-2限生 10:45 3-4年生 10:45						○	
11	水	警校指導	11-2限生 10:45 3-4年生 10:45				○			
12	木		10:45							
13	金	音楽発表会(3限目)4年生、5限目3年生)	11-2限生 10:45 3-4年生 10:45							
14	土	5限指導 一室下校	10:45							○

大河内小学校ホームページもご覧ください

学校生活の様子をホームページでご覧いただけます。学校だよりでは紙面の都合上、伝えきれないことがたくさんあります。子どもたちの日々の活動の様子をホームページで紹介していますので、お時間のある時に見ていただくと幸いです。この学校だよりのタイトルに載っている二次元コードを読み取っていただきますと、大河内小学校のホームページが表示されます。「松阪市立大河内小学校」で検索していただいてもすぐに見ることができます。学校だよりも毎回配信しています。よろしくお願いします。



各種学力調査の結果から・・・

	本校の平均正答率
国語	53%(△13.8)
算数	58%(±0.0)
理科	44%(△13.3)

※()内は、全国平均との比較です。

本年度も全国学力学習状況調査が実施されました。本校の結果について、今年度の結果からみえてきた特徴をお知らせします

○は成果がみられたもの、●は課題がみられたものです

【国語について】

○文章を読み、自分が納得したことを文中から取り上げ、その理由を明確に文章化することは県平均より 5.3%高かったです。昨年度も、自分が心に残ったことや感じたことを書く活動では、高い力がついているという結果を得ていますので、大河内の子どもたちの強みと言えます。

●話し合いの様子を読み、資料を活用して、情報と情報を関連付け、正しいものを選び取る問題では昨年同様、全国平均より 28.4%低い結果となりました。

上記の 2 つの結果から、本校児童は、自分の考えや理由を伝えられる表現力はついているものの、提示された条件や資料から情報と情報と結びつけ、4 つの類似した要約の中から正しいものを選ぶことに苦手感があることがわかりました。

短文で書かれた 4 択問題への苦手感ですが、テストで初めて出合うかなりの量の長文問題や資料を読んで、その全体像や前後関係から適切なものを選択する問題に対して、子どもたちは難しく考えすぎてしまったようです。情報量の多さに惑わされ、キーワードにフォーカスできなくなり、その結果、どれを選んでよいか迷ったのだらうと考えます。

←どれを選べばよいか迷った4択問題の短文です。確かに内容が似ていて、一見するだけだと、どれも正しそうです。

正答率が低くなった原因は、長文の読み取り＝情報の多さが負担となり、選択肢の内容を、自分の考えと照らし合わせて判断する力が十分でなかったことが関係していると考えます。これを改善していくには、文量に慣れることと、量の多い問題文の中にも、「似ている」あるいは「異なる」ことに気づく力や、「時系列」で整理する力、良い点、問題点など、判断の材料となる「キーワード」への反応を強くする力をつけていくが必要になります。そのためには、やはり語彙力を高めるしかありません。分析をすすめる中で、読書好きな子どもさんは、正しい選択ができていました。学年の発達に応じた読書に取り組んでいく必要性を感じます。

●漢字「暑い」の正答率は53.8%、13人中、7人が正答となりました。漢字は定着するまで繰り返し書く基礎的な練習が効果的です。ノートを使い、手をきちんと動かして丁寧に正しく書く。同時に、その意味や使い方をまとめる。漢字は、習った時に正しく覚えておかないと、次から次へとどんどん習うので、後で取り戻すのが大変です。

その学年で必要とされる力を、その学年できちんと身に付けていけるよう、チャレンジタイムや家庭学習などを活用して力を付けたいですね。

【算数について】

○平行四辺形の作図については、県平均より10ポイント高く、正答率も70%あり、基本的な力がついていました。13人という少ない集団で、作図について丁寧に指導できた結果だと考えます。分数については、その特徴について基本的な理解ができていました。

●問題文から問われていることを読み取り、関連付けて考えたり、考え方を説明したりすることに課題がみられました。全国的にも正答率が低かったのですが、使いかけのハンドソープの残量について必要な事柄を判断し、求め方を説明する問題が難しかったようです。

4

保健委員のあさひさんたちは、手を洗うときに使っているハンドソープについて話し合っています。



ハンドソープを空になるまで使うとしたら、何プッシュすることができるのかを知りたいです。

「プッシュとは、容器の先んを下までしっかり1回おすことです。
「プッシュしたとき、ハンドソープの液体が毎回同じ量ずつ出ることになります。

このハンドソープの液体と容器を合わせた重さは270gでした。

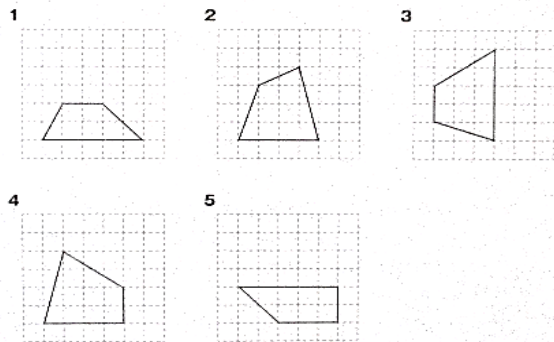
使いかけのハンドソープが空になるまでにあと何プッシュすることができるのかを知るためには、270gの他に何がわかればよいですか。

下の ア から エ までの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

また、その2つと270gを使って、あと何プッシュすることができるのか、その求め方を式や言葉を使って書きましょう。

ア	新品のハンドソープの重さ	360g
イ	ハンドソープの容器の重さ	60g
ウ	1プッシュ分のハンドソープの液体の重さ	3g
エ	かなさんが1日に手を洗う回数の平均	7回

(2) わかなさんは、方眼紙に下の 1 から 5 までの四角形をかきました。
下の 1 から 5 までの中で、台形はどれですか。
3つ選んで、その番号を書きましょう。



●5つの図形の中から、台形はどれかを選ぶ問題では、回転して向きがかわると、上底と下底の関係＝平行であることをうまく認識できていなかったことがわかりました。よく見かける形「2」や「4」を選択した子が多かったです。定義をあいまいにせず、さまざまな角度からみても、変わらない部分は変わらないことを認識しておく必要があると感じました。

毎年同じ傾向になりますが、言葉だけでなく、数値も使って説明できるようになることが、今、子どもたちに求められています。過不足なくわかりやすく説明することができるよう、算数用語を覚え、図や線を使って表すことに力を入れる。頭で考えたことを図に表すことに慣れる。そして、たくさん問題にあたる。結局はこれにつけると感じました。

【理科について】

○顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能については、県平均を2.6ポイント上回っていました。基本的な操作を行う技能が身についています。

●レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきをもとに、「自らが見いだした問題について、問いの形で書く」という問題は正答率0%でした。ここで大事だったのは、発芽条件を正しく理解していることと、発芽の条件のうち、何が足りていないのかを見つけ出す力が必要でした。そしてそれを「問いの文に表現する」には、やはり国語の力が必要です。

ものごと分析して解釈するには、比較の考え方を働かせながら、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見いだす力が必要となります。観察や実験などの方法を学ぶ中で、具体的に「問い」を見出し、予測し、見通しを立てることを授業の中で意識させる必要があると感じました。

【児童質問紙より】

「毎朝朝食を食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の値がほぼ高く、保護者のみなさまのおかげで基本的生活習慣が身についており、ほとんどの子どもたちが安心して学校生活が送れていることがみえてきました。

低かった値としては、「学校の授業以外に普段 ICT 機器を使った学習を一日あたりどのくらい学習していますか」で、30分未満から1時間程度と答えた割合が本校では84.0%となっており、学習への使用時間は全国より約30%少ないことがわかりました。学校からおすすめている eライブラリ など、タブレット端末を使った宿題にぜひ自主的に取り組んでほしいと思います。ただ、これは、自然豊かな校区で体験活動に力を入れていることがわかる結果とも受け止められ、様々なことに自主的に挑戦している意欲を今後も大切に、得意なことを伸ばそうとする姿勢を大事にしていきたいと感じています。